

もの言う牧師のエッセー 第208話

ノーベル賞小話

① 「エバーメクチン」

熱帯の寄生虫が引き起こす風土病「オンコセルカ症 (河川盲目症)」や「リンパ管フィラリヤ症」の特効薬となる抗寄生虫薬「エバーメクチン」の開発が評価され、北里大特別栄誉教授、大村智さんの2015年度ノーベル医学生理学賞の受賞が決まった。アフリカやアジア、中南米の熱帯地域では、今も感染症や寄生虫病の流行がやまない。現在も約2000万人が感染し、重症化すると失明するオンコセルカ症は危険だけでなく、後遺症などで社会復帰が出来ず、貧困を抜け出せないで病気のまん延がいつまでも治まらない悪循環を招く。熱帯病との闘いは人類に課せられた重要課題だ。

しかし、大村教授が発見した微生物を元に製造されたエバーメクチンは、毎年何千万人もの人に投与され、何万人もの失明を防ぎ、これまでWHOを通して10億人の人々に無償提供された言うからスゴイ。まさに彼はオンコセルカ症撲滅の福音をもたらしたのだ。だがもっと驚いたのは、この“新薬”が静岡県伊東市のゴルフ場近くの土の中から発見されたことだ。1グラムの土中に約1億の微生物が存在するが、彼はポリ袋やスプーンを持って各地を歩き、“葉掘り”の地道な作業を続け、年間3000種類の菌を調べて来たという話を聞いて、

**「国々よ。近づいて聞け。諸国の民よ。耳を傾けよ。地と、それに満ちるもの、世界と、
そこから生え出たすべてのものよ。聞け。」イザヤ書34章1節、**

という今から2700前に記された聖書の言葉を思い出し、思わず嬉しさのあまり飛び上がった。何のことはない、我々人類と全宇宙の創造主である神は、静岡県伊東市の土もアフリカの土も同時に造ったのだ。したがって難問解決の方法もその中にある。だが、それには忍耐と努力も必要だ。まずは創造主である神を敬うことから始めよう。

2015-11-18

